

コシヒカリ 穂肥早見板

👉1回目の穂肥は、3つの診断で精度UP！

○穂肥量のめやすを示しましたが、施用にあたっては圃場条件等を加味し施用願います。
○内容は、わかりやすくするために簡単に記載しています。

1 分施での穂肥のめやす(基肥+穂肥体系)

(1) 穂肥の時期

	1回目		2回目	(3回目:高温年に施用)
出穂前日数	18日 ~ 15日		10日	3日前までに
幼穂長(cm)等	1	2.9	10	走り穂が見えた頃

(2) 1回目の穂肥量

👉①出穂23日前頃、幼穂形成期(幼穂長0.1cm)の時に診断

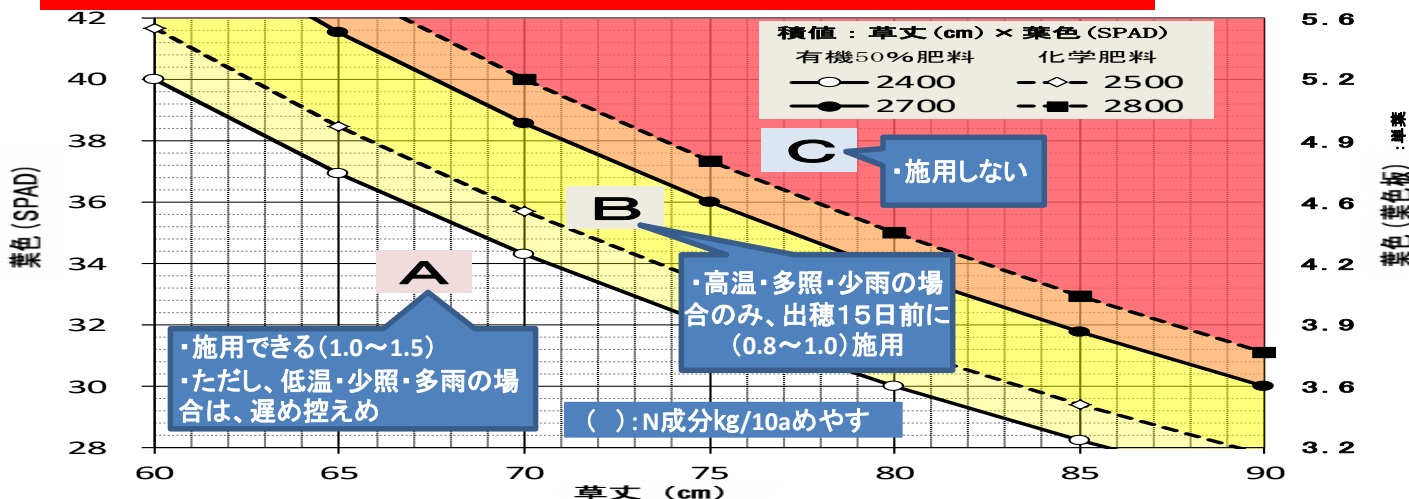


図 幼穂形成期の生育量(草丈×葉色の値) 早見グラフ(図中の曲線は積値[草丈(cm)×葉色(SPAD)]を表す)

新潟県 水稻栽培指針 より作成

👉②出穂20日前(幼穂長0.3cm)の時に診断

葉色	茎数	葉色×茎数
葉色カラスケール(群落)	3.0~3.5	m ² あたり茎数
		1,400

・1,400以下で施用(1.0~1.5)
・数字が大きくなるにつれて施用できなくなる
(): N成分kg/10aめやす

日本一おいしいにいがた米 より作成

SPAD値と葉色カラスケール(群落)換算表

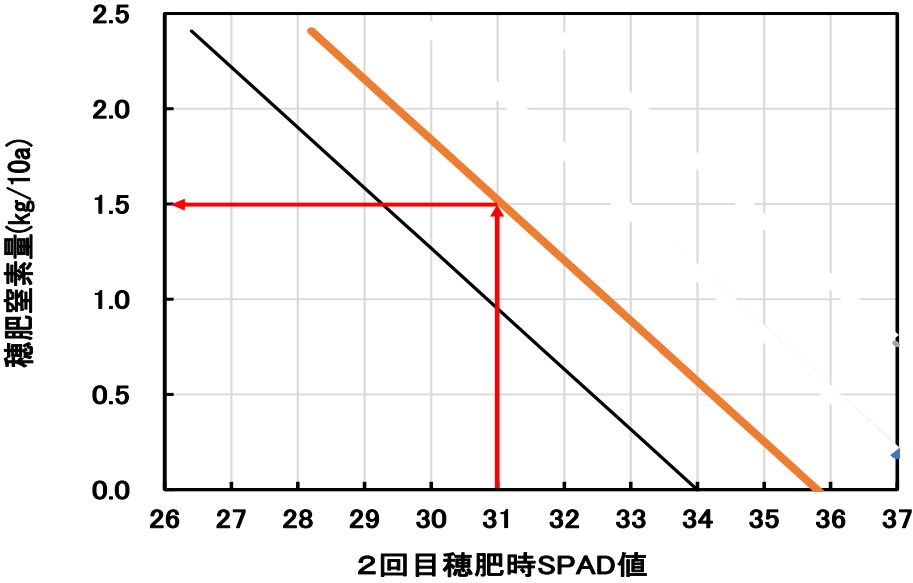
SPAD値	31	32	33	34	35	36
葉色板(群落)	2.8	2.9	3.1	3.3	3.5	3.6

👉③出穂18日前(幼穂長1cm)の時に診断(簡便法)

JA魚沼SPAD 貸出資料より作成

草丈	SPAD値	気象予報別穂肥対応 (): N成分kg/10aめやす		
		低温・少照・多雨	平年並み	高温・多照・少雨
75cm未満	32以下	○~△ (0~1.0)	◎ (1.0~1.5)	◎ (1.5)
	33~36	×	×	○~△ (0~1.0)
	37以上	×	×	×
75~80cm	32以下	○~△ (0~1.0)	○~△ (0~1.0)	○~△ (0~1.0)
	33~34	×	×	○~△ (0~1.0)
	35以上	×	×	×
80cm以上	・極端に葉色が薄い場合・異常気象の場合以外は、基本的に施用しない。 ・葉色の低下傾向が強く高温が予想される場合は、「遅め、控えめ」の施用とする。			

(3) 2回目の穂肥の診断



- 出穂期の目標SPAD値
- 32
 - 33
- 目標SPAD値の考え方<暫定>
- ・32→平温年
 - ・33→高温年
- ・診断時期：出穂10日前
- ・測定項目：葉色（SPAD）
- ・診断：左のグラフにあてはめ、穂肥窒素量をよむ。

～診断例～

上記のグラフでは、出穂期の目標SPAD値：33 の場合、2回目穂肥時（出穂10日前）の葉色（SPAD値）31では、穂肥窒素量：1.5 kg/10aとなる→（赤矢印）を診断例として追記している。

（長岡農業普及指導センター資料より作成）

(4) 3回目の穂肥の診断

- ・診断時期 出穂10日前（2回目穂肥時）以降
- ・診断方法等 ①登熟期に高温が予想される場合で、
②出穂期に葉色（SPAD値）が32～33を下回ると予想される場合
- ・施用時期・量 出穂の3日前（走り穂が見えた頃）までに窒素成分で1kg/10aをめやすに施用する。

2 全量基肥での穂肥のめやす（一発基肥の体系）

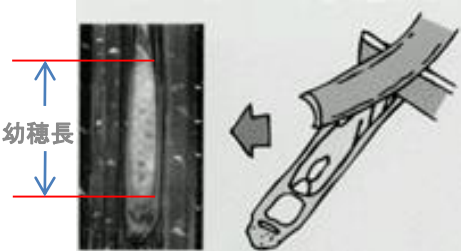
- ・診断時期 出穂3～10日前
- ・診断方法等 出穂期に葉色（SPAD値）が32～33を下回ると予想される場合
（複数日に測定し、葉色の推移により予想精度を上げる）
- ・施用時期・量 出穂の3日前までに窒素成分で1kg/10aをめやすに施用する。

<参考> 出穂前日数と幼穂長等

コシヒカリ 穂肥の施用	出穂前 日数	幼穂長(cm)	葉耳間長(cm)
	30	0.02	
	23	0.1	
	20	0.3	
1回目	18 ～ 15	1（止葉抽出）	
		2.9	
	12	4～6	－10
2回目	10	10	－2～±0
	8	17	5～6
	4～6		（出穂走り）

<幼穂長による出穂前日数予測>

- ① ほ場内の平均的な生育の株を3株選ぶ。
- ② 株の中で長い方から2～3本の茎を株元から引き抜き、下図のようにに幼穂長を測る。
（調査本数：3株×2～3本＝6～9本）
- ③ 測定した幼穂長を左表にあてはめ、出穂前日数を予測する。



新潟県 水稻栽培指針 より作成